

## 二章 渡嘉敷村総合戦略



## 1. 総合戦略の基本的な考え方

### 1) 戦略策定の趣旨

わが国の総人口は、平成 17 年以降は増減を繰り返していたものの、平成 23 年以降においては大きく減少が続き、経済成長に大きなマイナスの影響となる課題に直面しています。沖縄県においては、現在人口増加傾向ではあるものの、各種取り組みが進まないと 2025 年をピークに人口減少となると推計されています。

そのような状況の中、わが国は、平成 26 年 11 月 21 日に地方創生関連 2 法案（「まち・ひと・しごと創生法」および「地域再生法の一部を改正する法律」）を成立させました。この法案では以下に示す 3 つの視点が根本にあります。

#### ① 「東京一極集中」を是正する。

地方から東京圏への人口流出に歯止めをかけ、「東京一極集中」を是正するため、「しごとの創生」と「ひとの創生」の好循環を実現するとともに、東京圏の活力の維持・向上を図りつつ、過密化・人口集中を軽減し、快適かつ安全・安心な環境を実現する。

#### ② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。

人口減少を克服するために、若い世代が安心して就労し、希望通り結婚し、妊娠・出産・子育てができるような社会経済環境を実現する。

#### ③ 地域の特性に即して地域課題を解決する。

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、中山間地域をはじめ地域が直面する課題を解決し、地域の中において安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるようにする。

## 2) 渡嘉敷村総合戦略の基本視点（まち・ひと・しごとの好循環の確立）

渡嘉敷村の人口が微増減を繰り返しながらも、長期的には人口減少が進行している地域であり、総合戦略では次の2つの循環を中心に考える必要があります。

①“人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる“という負のスパイラル(悪循環の連鎖)に陥ることへの危機感。(悪循環)

②新たな「ひと」の流れを生み、その流れは「まち」に活力を取り戻し、村民一人ひとりが安心して暮らし、子どもを産み、育てられる地域社会の創生につながっていく好循環の確立。(好循環)

## 3) まち・ひと・しごと創生の考え方

まち・ひと・しごとの好循環の確立に向けた取組は、個々の問題点や課題への対症療法的なものではなく、「しごと」、「ひと」、「まち」それぞれの自立的かつ持続的な好循環の確立につながっていくことが求められます。

そのためには、まずは地域のまち・ひと・しごとの実態を正確に把握し、分析するとともに、相乗効果を発揮できるよう各施策を一体的に取り組む体制が必要です。また、取組の成果を検証し、適宜、見直しを図っていくための体制を確立することも不可欠となります。

このような認識のもと、まち・ひと・しごとそれぞれの創生にあたり、次のような考え方に基づき施策を立案し、取り組んでいくものとします。

しごとの創生	世界的にも貴重な海洋資源に恵まれた渡嘉敷村では、基幹産業である観光産業を <b>自然を守り活かした「しごと」の創生</b> として戦略的に位置づけ、観光の質の向上や、新たな地域産業との連携を支援を推進するとともに、年間を通じた安定した雇用環境を生み出す取組を推進します。
ひとの創生	本村への新しい「ひと」の流れをつくるため、「しごと」の創生を図りつつ、 <b>定住環境を整備する</b> とともに、村内で働く若い世代をしっかりとサポートします。また、子育てや暮らしの負担を和らげ、「しごと」にチャレンジできるよう、結婚から妊娠、出産、子育てまで切れ目のない取組を推進します。
まちの創生	「しごと」と「ひと」の好循環を支える「まち」の創生は、渡嘉敷村にしかない恵まれた自然環境を守り育て、環境重視の特色あるむらづくりを行い、自然との共生によるブランド化を図ります。

#### 4) 渡嘉敷村の将来展望からみる施策展開のイメージ

渡嘉敷村に影響を与える環境要因を洗い出すことで、展開する戦略をイメージします。

##### ①内部・外部環境要因(プラス・マイナス要因)分析

<div data-bbox="188 488 220 517" style="text-align: center;">S</div> <div data-bbox="172 557 233 586" style="text-align: center;">強み</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美しい自然環境</li> <li>・海に関わる仕事を求め若者の定着がある</li> <li>・ラムサール条約に指定された海域</li> <li>・8割以上の方が地域活動に参加している</li> <li>・理想の子どもの数は平均 2.84 人を希望</li> <li>・出生率の上昇が推計されている</li> <li>・付加価値の高いシイタケの原木栽培</li> <li>・マグロジャーキーなど特産品がある</li> </ul>	<div data-bbox="1382 488 1414 517" style="text-align: center;">W</div> <div data-bbox="1366 557 1426 586" style="text-align: center;">弱み</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者用の住宅の確保（空き家の再生・活用等）に対する要望が多い</li> <li>・島内の物価が高い（買い物、建設費など）</li> <li>・高齢出産によるリスク</li> <li>・子育てにお金がかかる</li> <li>・島内の交通利便性が悪い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本島から近い島</li> <li>・沖縄県を訪れる観光客の増加</li> <li>・外国人観光客の増加</li> <li>・光ファイバーの設置</li> <li>・自然環境への関心の高まり</li> <li>・田舎暮らしへの関心の高まり</li> </ul> <div data-bbox="188 1895 220 1924" style="text-align: center;">O</div> <div data-bbox="172 1964 233 1993" style="text-align: center;">機会</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット通販の利用が見られるが、非利用者との格差が生じていると考えられる</li> <li>・来訪手段がほぼ船舶に限られるため、台風など自然災害による被害に弱い。（観光客はキャンセル）</li> <li>・イノシシによる被害</li> </ul> <div data-bbox="1382 1895 1414 1924" style="text-align: center;">T</div> <div data-bbox="1366 1964 1426 1993" style="text-align: center;">脅威</div>

## 2. 今後の施策の目指すべき方向

### 1) 施策の基本的方向

渡嘉敷村では、若年層は高校進学や就職の際に村外に転出する割合が高くなっており、その際には母親、又は家族全員が進学先へ転出する場合も多く見られます。しかし、観光産業を中心に青年層が島を訪れ定住化が進みつつあるという明るい兆しも見られます。

このような人口移動が継続的にある中で、本村にしかない豊かな自然環境を活かし、観光産業を中心とした「しごと」を創出し豊かな自然の中で暮らすという、県内外からの自然志向のニーズに応え移住者を取り込み、その「ひと」が碧島の優れた自然環境と融和して「しごと」をつくり、碧島の生活を維持していくという「ひと」と「しごと」を中心とした好循環に転換していくことが必要です。

本村では、こうした“まち・ひと・しごとの好循環”を確立することを戦略策定の基本視点に据えたうえで、「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」に同時かつ一体的に取り組むものとし、渡嘉敷村人口ビジョンで掲げた長期の人口目標を達成するために、総合戦略の計画期間である5年間の取組みの目標として4つの基本目標を定めます。

環境共生のトップランナーの碧島として、他に例を見ないブランドづくりにチャレンジします。

- ①碧島の風景と自然環境に調和したしごとをつくり、雇用を創出する
- ②住んでみてチャレンジできる碧島づくり
- ③若者が定住し、結婚・出産・子育ての希望をかなえることができる島
- ④時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

### 環境共生トップランナー



渡嘉敷ブランドづくり

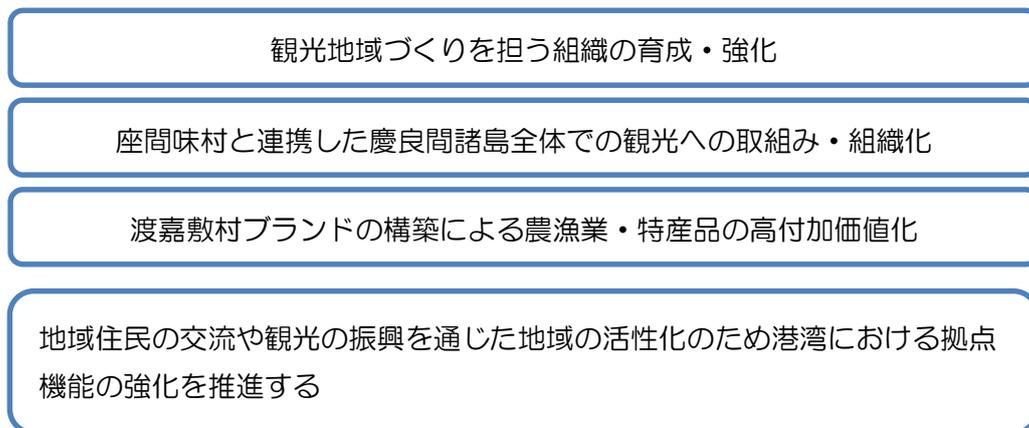
基本目標 1		
しまの風景と自然環境に調和したしごとをつくり、雇用を創出する		
数値目標	基準値	目標値（平成 31 年）
特産品の開発	—	2品

渡嘉敷島周辺の海域は、ラムサール条約に指定されています。また、渡嘉敷島、前島の海岸線の大部分と周辺無人島は沖縄海岸国定公園に指定され、世界的にも貴重な自然とその保護が図られています。

そのような豊かな自然環境を活用し、碧島の重要な産業である観光産業の持続的な発展を図るために、観光地域づくりを担う組織の育成を推進します。

また、自給的農家が主体の本村の農業については、環境に配慮した農業振興を図りつつ、地域特性に応じた付加価値の高い特産品の生産を推進し、渡嘉敷ブランドの構築を行います。

水産業については、加工品等特産品の開発と流通ルートの開拓を行い、水産物のブランド化を行います。



#### ■渡嘉敷ブランドの例

渡嘉敷でしか入手できない、ここでしか食べられないブランドの創造（少量高価値）

- ・マクロジャーキーの生産性向上と販路拡大
- ・純渡嘉敷産焼酎（泡盛のような焼酎）
- ・他市町村にはない料理や加工品の開発・製造・販売（例：猪やすっぽん等）
- ・村内でのお土産用のお菓子等の開発・製造・販売
- ・林業と連携したシイタケ栽培の強化



アンテナショップやイベントでの発信

## 基本目標 2

### 住んでみてチャレンジできる碧島<sup>しま</sup>づくり

数値目標	基準値	目標値（平成 31 年）
社会移動	-2（平成 25 年）	+5（5 年間の純増）
定住化プログラムの策定	—	定住促進に向けたプログラムの策定
県外の移住フェア等への参加による情報発信	—	5 回（年 1 回）
新規起業数	—	2 件

渡嘉敷村では、観光産業を中心に若年層が定着しつつあります。地域社会を維持し定住人口の増加を図るためにも、積極的に若者の定住を促進します。そのためには住居の確保や、夏場の観光産業だけではない通年型の安定した雇用の創出、新たな起業支援を行い、渡嘉敷村で仕事にチャレンジできる環境を創出します。

大都市向けのU I ターンの情報発信

優良住宅の開発や、空き家を利用した住居の確保・推進

年間を通じて安定した雇用の確保

村内における新たな起業支援

#### ■具体展開の例

まずは、「定住化・移住促進プログラム」等を策定し、空家状況の調査・把握した上で、利用方策の検討を行う。

そのうえで、促進に向けたプロポーシオン（シンポジウムやセミナー開催）により渡嘉敷村の様々な魅力を発信し、移住を促進する。

### 基本目標 3

若者が定住し、結婚・出産・子育ての希望をかなえることができる島

数値目標	基準値（平成 24 年）	目標値（平成 31 年）
合計特殊出生率	1.8 人	2.1 人
空き家を活用した定住促進	—	2 件（5 年で）

渡嘉敷村では、若者の未婚の割合が高くなっており、結婚を望む人たちの意向を汲みながら、出会いの場の創出に取り組む必要があります。また、村外の医療機関において出産する妊婦に対して、交通費や宿泊費の助成による経済的負担の軽減を図るなど、安心して出産できる環境や子育て環境の整備を推進します。

子育て世帯に対しては、優良住宅の供給など、他の分野とも連携した支援策を行います。

若者同士の交流や出会いの機会の創出

本村で子供を育てたいと考えられる環境づくり

子育て世帯等多様な住宅の確保

#### ■具体展開の例

移住希望者や婚活希望者を県内外から募集してイベントの開催

- ・ 渡嘉敷で働きたい、渡嘉敷で出会いの場を求めたいという方を募集して、仕事体験や婚活イベントを実施する。

#### 基本目標 4

暮らしの安心を守り、やさしい碧島のしくみをつくる

数値目標	基準値	目標値（平成 31 年）
地域活動への参加	84.8%（平成 27 年）	90.0%

渡嘉敷村にしかない恵まれた自然環境を守り育てることを戦略の要とし、環境重視の特色あるむらづくりを行い、自然との共生による碧島のブランド化の推進とプロモーションを行います。

また、慶良間諸島として地域が連携し、一体となった観光地づくりを行い、戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーションを行い、地域の魅力を高めることで観光を振興します。

村内では、生活の安心・安全の確保、質の向上を目指し、幼・小・中一貫教育による質の高い教育環境づくりや、高齢者も安心して暮らせる環境など、全ての村民にやさしい環境づくりを行います。

自然との共生による碧島のブランド化の推進とプロモーション

慶良間諸島として連携した観光地域づくり

高齢者が安心して暮らせる環境づくり

災害・防災時にも、地域で助け合う基盤づくり

荒天時の波に対応する護岸（防波）等の整備

幼・小・中一貫教育による質の高い教育環境づくりと機会の創出

#### ■具体展開の例

慶良間諸島として地域連携を行うDMOの設立

- ・座間味村と連携し、慶良間諸島を一体とした観光地域として、マーケティングやマネジメント等を行うことにより観光地域づくりを行う組織を立ち上げる。

### 3. 委員会ワークショップによる提案事項

策定委員会において、ワークショップ形式で意見交換を行い、そこで提案された意見を具体的な施策の例としてとりまとめを行いました。基本目標を達成するために、次年度以降具体的な取組みとして実施を検討します。

- 基本目標 1：碧島の風景と自然環境に調和したしごとをつくり、雇用を創出する
  - ・阿波連地域のブランド化。沖縄一の観光地を目指す
  - ・冬場の産業作り。年間を通した観光産業の振興
  - ・純渡嘉敷産のブランド化
  - ・イノシシ被害を産業に変える。屠殺場の整備、商品開発（イノシシカレー、バーベキューでの利用など）
  - ・農業後継者の育成と農地確保への支援
  - ・島米を活かした特産品開発（地酒、米粉パン）
  - ・タームなど農作物を加工した特産品開発
  - ・薬草茶の開発
  - ・農作物加工場の活用
  - ・漁業資源を活かした特産品開発（マグロジャーキーの製造拡大、シーラの干物、レトルト食品）
  - ・もずくを特産品化（もずくてんぷら等）
  - ・島マースの生産、販路の確保
  - ・原木栽培による付加価値の高いシイタケ栽培の拡大
  - ・渡嘉敷山水の商品化
  - ・島の農作物を宿泊施設で提供する仕組みづくり
  - ・染物技術の普及（シャリンバイ）
  - ・アダンの実の活用
  - ・光ファイバー設置による IT 関連の起業促進、事業者の誘致
  
- 基本目標 2：住んでみてチャレンジできる碧島<sup>しま</sup>づくり
  - ・若い世代・子育て世代の意見を拾う場（機会）を作る
  - ・本村出身の若者への就労支援
  - ・民間によるアパートや公営住宅の整備
  - ・出産手当の支給
  - ・託児所の整備と人材確保
  - ・家族手当、住宅手当などを支給している企業への各種減免制度

●基本目標 3：若者が定住し、結婚・出産・子育ての希望をかなえることができる島

- ・空き家を活用した住宅の提供
- ・妊娠時の検診、出産時の支援
- ・出産手当の支給
- ・村営住宅の入居資格の検討。(若者や子育て世帯が入居しやすいように)
- ・学童保育の実施、保育士の確保
- ・子供の医療費の補助拡大
- ・医療の充実。医薬品の確保

●基本目標 4：暮らしの安心を守り、やさしい碧島のしくみをつくる

- ・若者の出会いの場の創出
- ・グレードの高い高齢者福祉施設の誘致
- ・Iターンや孫ターンの推進。同居等による住宅の確保は見込めるので、働く場所の確保
- ・輸送コストから来る村内の物価高解消への支援
- ・ネットショップの窓口設置
- ・中学生向け料理教室などを実施し、15の春に向けた準備を支援
- ・内航路を使った物流。農作物、魚。慶良間諸島の食べ物の流通
- ・進学時の引越し費用の補助
- ・教育環境の強化、塾の日数を増やす
- ・少人数の学習環境を活かしたきめ細かな教育の実現



渡嘉敷村総合戦略有識者会議（ワークショップ形式）

## 4. 総合戦略の推進に当たって

### 1) 総合戦略の推進体制

総合戦略の推進については、毎年、戦略会議において基本目標に基づいて事業立案を行います。事業の実施にあたっては、担当課、分野の垣根を越えた全庁体制と、慶良間諸島として座間味村との連携や、沖縄県及び多様な主体との連携により推進します。

### 2) PDCAサイクルと総合戦略の改定

本村のまち・ひと・しごと創生に向けて、総合戦略を着実に実行するために、基本目標とKPI（重要評価指標）をもとに、PDCAサイクル（計画、実行、評価、改善）の視点で、施策・事業の評価・検証を行います。

評価では、毎年年度末を目途に行い、総合戦略の実施状況の確認や効果の検証をもとに、必要に応じて総合戦略を改定し、事業の見直しなどを実施します。

